



パーク中ウィンドウの使用方法



(注)

このウィンドウは、Attendant Console に接続されているサーバ上で Cisco Unified CallManager Release 4.2 以降を実行している場合のみ表示されます。

この章では、次のトピックについて取り上げます。

- [コールの転送先保留 \(P.7-2\)](#)
- [転送先保留にされているコールの復旧 \(P.7-3\)](#)
- [パーク中ウィンドウを使用したコール制御作業の実行 \(P.7-4\)](#)

関連項目

- [パーク中ウィンドウ \(P.1-12\)](#) (解説)

コールの転送先保留

パーク（転送先保留）機能を使用すると、コールを保留にして、システム上の他の電話機からこのコールを復旧できます。コールを転送先保留にするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 次の作業のいずれかを実行します。

- 転送先保留にするコールを右クリックして、コンテキストメニューから [パーク] を選択します。
- 転送先保留にするコールをクリックした後、[通話制御] ツールバー上で [パーク] ボタンをクリックします。
- 転送先保留にするコールをクリックして、[アクション] メニューから [パーク] を選択します。
- PC のキーボード上で **Ctrl + P** キーを押します。
- 転送先保留にするコールを [通話制御] ウィンドウから [パーク中] ウィンドウにドラッグします。

ステップ 2 コールが転送先保留にされている転送先保留番号が、ダイアログボックスに表示されます。 **OK** をクリックします。

転送先保留にされているコールが [パーク中コールの詳細] ペインに表示されません。

ステップ 3 転送先保留にされているコールを復旧させるユーザに連絡します。

転送先保留にされているコールの復旧

転送先保留番号に保留されているコールにユーザが応答しない場合は、そのコールを転送先保留番号から復旧できます。

転送先保留にされているコールを復旧するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ユーザがコールに応答しない場合は、次の作業のいずれかを実行して、転送先保留にされているコールを復旧させます。

- 転送先保留から復旧させるコールを右クリックして、コンテキストメニューから **[パークの復元]** を選択します。
- 転送先保留から復旧させるコールをクリックした後、[通話制御] ツールバー上で **[パークの復元]** ボタンをクリックします。
- 転送先保留から復旧させるコールをクリックして、[アクション] メニューから **[パークの復元]** を選択します。
- PC のキーボード上で **Ctrl + P** キーを押します。

ステップ 2 番号が表示されているダイアログボックスで、復旧させる電話番号を選択します。 **[パークの復元]** をクリックします。

アクティブなコールが [通話の詳細] ペインに表示されます。

ステップ 3 発信者に状況を知らせます。

別の方法（ショートカット）

- PC のキーボードで、復旧させるコールの電話番号のキーを押した後、**Ctrl + P** キーを押します。転送先保留にされているコールが自動的に [通話の詳細] ペインに戻ります。
- 転送先保留にされているコールを [パーク中] ウィンドウから [通話の詳細] ペインにドラッグして、そのコールを復旧させることができます。

パーク中ウィンドウを使用したコール制御作業の実行

[パーク中] ウィンドウに表示されている転送先保留中のコールに影響するコール制御作業は、次のとおりです。

- 転送先保留にされているコールのアテンダントおよび [通話制御] ウィンドウへの復旧

コール制御作業の実行方法については、[P.2-1](#) の「[コールの処理](#)」を参照してください。